

昨年3月末、薬学部6年制学科が初めて卒業生を社会に送り出した。全国74校のうち67校が晴れて卒業生・薬剤師を輩出した。2年間の空白による薬剤師不足の中で、調剤薬局チェーンを中心に早い時期から「勧誘活動」が展開された。今年度から「薬剤師の病棟常駐」を業務として獲得した病院薬剤部(科)でも、例年に比べ熱心に人員確保が進められた。結果としては卒業生のうち約4割が薬局薬剤師へ、約3割が病院や診療所の薬剤師として就職した。薬学教育協議会がまとめた2012年3月薬系大学卒業生・大学院修了者就職動向調査の集計報告で明らかになった。

ッグストアなど一般販売業には562人(7%)が就職し、全体の4分の3が現場の「薬剤師」を選択したといえる。一方、医薬関連企業へは996人と全体の約12%が就職しており、このうち「医薬情報担当者」がほぼ半数を占めている。

4年制卒8割が修士課程へ

一方、昨年3月卒業の4年制学科卒業生は薬学部6年制がスタートしてから、既に3期生目にあたる。卒業した708人のうち541人、約76%が大学院修士課程に進学した。同調査では8校から進学などに関する回答がなかったが、4年制学科入学定員計は452人で、卒業者の7~9割強が大学院に進学している。

薬学教育協議会調査 6年制卒の就職動向

4割が薬局、病薬は3割に

この報告は全国の薬学部や薬科大学74校のうち、昨年3月に6年制第1期生を輩出した全ての大学から得た回答をまとめたもの。6年制および4年制の卒業生ならびに大学院博士課程前期課程(修士課程)・博士後期課程(旧博士課程)修了者が対象。なお、今回調査では国立5校と私立3校の合計8校から「6年制卒業生の進学者」に関

する回答は得られなかった。調査結果によると、6年制卒業生は8476人(男性3369人、女性5107人)だった。新4年制の修士修了者1083人と合わせると9559人。2006年度入学でストレートに卒業した総数ともいえる。

旧4年制教育を受けた08年3月卒業生の数と比較すると、総卒業生(当

時は56校)は1万0109人(4217人、5892人)で、大学数が増加したにも関わらず、卒業生は減少した。

卒業生のうち最も多い就職先はやはり「薬局」で3308人(39%)に達する。次いで病院や診療所の薬剤部(科)で2522人(30%)なり、卒業生のうち4割が薬局薬剤師に、3割が病院薬剤師の職に就いた計算だ。さらに、ドラ

先輩に聞く 関連記事10~16ページ

薬局薬剤師編

望星築地薬局
吉田史子さん



「患者さんの一声」にやりがい

吉田さんは付属校時代、生物や化学が好きで、薬学部4年制最後の年ということもあり、「薬剤師になろう」と決めて日大薬学部へ進学した。大学での実務実習は病院・薬局の選択制。

病院実習4週間を選び、自主的に薬局実習も2週間経験した。

就職に際しては「病院と薬局とで最後の最後まで悩みました」という。当時の病院実習について、「限られた人が病棟に行くという状況で、調剤室での業務が多く、病棟には数回しか行きませんでした」と振り返る。その上で「薬局の方が、患者さんと接する機会が多く、薬局薬剤師の道を選びました」と語る。

入社当時「患者さんの中には医師が一番で、薬剤師の話は聞いてくれない方もいて、授業のように一筋縄ではいかないと感じました。自分から歩み寄って、患者さんに合

わせた対応を考えなければならないと実感した」と語る。

4年目も後半を迎え、業務内容は処方箋の受付、処方鑑査、調剤、最終監査、服薬指導といった一連の業務をこなすが、「難しいのは服薬指導。いかに患者さんに薬を飲んでもらうかと苦労しています」と話す。

実際、処方箋だけでは分からない患者背景や処方意図もあり「患者さんからの情報収集がとても大事。そのためのコミュニケーション能力が非常に重要」と実感がこもる。

その上で「きちんと飲もうと納得して帰られた患者さんから、『おかげさまで症状・体調が良くなった』といわれると、とてもやりがいを感じます」と、日々の努力が実を結びつつある。

現在は「先輩」として、新人の教育係を務める。今年入社した薬剤師2人と事務員1人を担当している。「直接上司に言えないこともあるので、

私がワンクッション」と笑う。

とはいえ「指導する中で、自分の知識があやふやだったことに気づかされたり、どういう言葉でどう伝えれば相手が理解し、伸びてくれるか、すごく難しい」とは先輩ならではの悩みも。しかし、後輩の指導は「ワンステップ上の服薬指導につながる」と、様々な経験を薬剤師業務の進化につなげる。

直近の目標としては、年1回の社内研究会で、「自らも提案をしていくつもり」と、次のステージを目指す。

就活時代、吉田さんは合同セミナーや各社説明会に積極的に参加、「実際に話すことが大事」という。その中で望星薬局には、充実した研修制度とその姿勢に魅力を感じたという。多店舗展開はないが「1店舗に多くの薬剤師がいて、すごく勉強になる。先輩の姿を見て、盗んで自分のものにしていきます」という。魅力のものは「人」のようだ。

「小さい頃、たまたま寄った調剤薬局で、ガラス窓越しに見る薬剤師さんの白衣姿に惹かれ、漠然とした憧れがあった」と語るのは、望星築地薬局(東京都中央区)に勤める吉田史子さん。4年目を迎え、少しずつ責任を持たされる立場になってきた。

同店舗は神奈川県を中心に展開する「望星薬局」の1つで、年中無休、近接の聖路加国際病院をはじめ月間約200以上の広域な医療機関からの処方箋を応需する。現在、栄養士など含め約25人のスタッフがOTC医薬品や介護関係まで幅広く業務をこなす。

株式会社 望星薬局
BOHSEI PHARMACY

会社説明会開催中
東京・神奈川

キャリアパスに基づいた段階的教育制度を導入
多くの仲間と学び・助け合う活気のある職場
薬剤師を多方面からサポートする調剤システム

薬剤師の専門性を
発揮できる場として

望星薬局は業界のリーディングカンパニーとして、薬剤師職能の発展を常に志向し、最先端の薬局の創造を目指していきます。

問合せ先: 人事部
〒259-1143
神奈川県伊勢原市下糟屋96-2
TEL: 0463-94-4193
http://www.bohseipharmacy.com
担当: 川口

説明会日程確認・エントリーはこちらから

+αの薬剤師を目指す君に!